

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスらん		
○保護者評価実施期間	2026.1.20		2026.2.20
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026.1.20		2026.2.20
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026.2.28		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が事業所内研修や外部機関の見学に参加できる機会が確保されている。	内部研修や外部見学を通じて専門性の向上に努めている。職員が定期的に内部研修を受けられるよう、年間計画に組み込んでいる。経験年数に関わらず学びを深める体制を整えている。	研修や見学で得た知識をまとめ、マニュアルや支援計画に反映する仕組みを強化する。外部機関との連携を広げ、見学先や研修テーマの多様化をはかる。
2	利用児小津の自発性を重視した支援を行っており、クリスマスや夏まつりなど季節のイベントが充実している。	児童が自ら選択、発言できるように複数の選択肢を設け、イベント企画の際には、児童の意見や希望を取り入れ、主体的に参加できるように工夫している。また職員間で事前に打ち合わせを行い、児童の特性に応じた参加方法を検討している。	イベント後に児童と振り返りの時間を設け、次回に活かせる意見を収集する。季節行事以外にも日常活動の中で児童が主体的に企画、運営できる小規模イベントを取り入れる。
3	地域の図書館など外部施設などに出掛ける機会を設けている。	外部施設への訪問を児童の興味や発達段階に合わせて計画している。図書館の利用では児童が自分で本を選ぶ機会を設け、主体性を尊重している。	外部施設訪問のバリエーションを増やし児童が多様な体験を積めるようにする。訪問後に児童と振り返りを行い、学びや気づきを次の活動に活かす仕組みを導入する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援時間中の情報共有が難しい。	支援時間中は児童対応が優先されるため職員同士が落ち着いて情報交換できる時間を確保するのが難しい。	情報共有のためのICTツールや定例ミーティングの活用を検討する。定期的に情報共有の方法を見直し改善点を職員間で話し合う場を設ける。
2	低学年、高学年の児童が別れていないため、交流にわだかまりが出来る場合がある。	学年や発達段階に応じた活動わけの仕組みが未整備である。活動プログラムが一律であるため高学年、低学年児童に合わせざる場面がある。	児童の学年や発達段階に応じたグループ活動を導入し交流のバランスを改善する。活動後に児童の様子を振り返り交流のわだかまりがないかを定期的に確認する。
3	地域との連携や保護者同士との交流が乏しい。	地域施設や団体、保護者同士の定期的な交流計画が不足しており、連携が単発になりがちである。交流の必要性は認識されているが具体的な仕組みや担当者の役割分担が明確化されていない。	SNSや通信を活用し地域活動や保護者交流の情報を積極的に発信し地域連携や保護者交流を年間計画に組み込み継続的に実施できる体制の検討を行う。